

## Contents

- 1 企画展「再興院展の立役者 齋藤隆三」(五浦美術館)
- 2 企画展紹介「再興院展の立役者 齋藤隆三」(五浦美術館)
- 3 企画展紹介「のぞいてみよう!! 東京美術学校課題画展」(五浦美術館)
- 4 企画展紹介「辻 永 ふたつの顔を持つ画家—油彩と植物画—」(近代美術館)
- 5 企画展紹介「戦後日本版畫の展開—照沼コレクションを中心に」(近代美術館)
- 6 令和3年度 新収蔵作品紹介(近代美術館)
- 7 企業パートナーシップ事業(近代美術館)
- 8 インフォメーション

## 天心記念五浦美術館

「再興院展の立役者 さいとうりゅうぞう 齋藤隆三」より

小林古径《機織》大正15(1926)年 東京国立近代美術館蔵

齋藤隆三りゅうぞうという人物をご存知でしょうか。日本画に詳しい方や美術の研究者でないと馴染みがないかもしれません。齋藤は現在の茨城県守谷市出身の歴史家で、主に近世史や郷土史に関する著作を残した人物です。数多くの功績がありますが、特に当館にとって重要なのが、明治40(1907)年頃、五浦で制作を行う横山大観おおくま、菱田春草しんそうら日本美術院の画家たちのもとを訪れ、これをきっかけに生涯にわたる交友関係が築かれたことです。当時彼らの絵はあまり売れず、苦しい時代を過ごしていましたが、そんな大観たちの良き理解者となったのが齋藤でした。岡倉天心の死後、大正3(1914)年

には大観とともに日本美術院の再興に尽力し、その後も実に半世紀近く院の経営に携わり、大観たちを支えていきました。

本展では、そんな日本美術院の“裏方役”齋藤隆三にスポットをあて、齋藤を主人公に院の歴史を改めて振り返ります。美術館だより表紙を飾るのは、院を代表する日本画家・小林古径が再興第13回院展に出品した「機織」。齋藤が著書『日本美術院史』で「現実を写して古典の薫り豊かに、繊細なる感覚を気品高く表現したる」力作と評した作品です。

[天心記念五浦美術館 学芸員 塩田积雄]

会 期：2022(令和4)年10月8日(土)～11月27日(日)  
 ※会期中、展示替があります。  
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)  
 休 館 日：毎週月曜日(ただし10月10日(月・祝)は開館、翌11日(火)は休館)  
 入 場 料：一般840(730)円／満70歳以上420(360)円／  
 高大生630(520)円／小中生320(210)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料  
 ※土曜日は高校生以下無料  
 ※10月15日(土)は満70歳以上の方は無料  
 ※11月13日(日)茨城県民の日はすべての方が無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館  
 協 力：公益財団法人 日本美術院  
 後 援：朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／株式会社茨城放送／  
 NHK水戸放送局／産経新聞社水戸支局／  
 東京新聞水戸支局／毎日新聞水戸支局／  
 読売新聞水戸支局／北茨城市／北茨城市教育委員会／  
 守谷市／守谷市教育委員会

助 成：芸術文化振興基金  
 公益財団法人 三菱UFJ信託地域文化財団



展覧会の概要

齋藤隆三(1875-1961)は茨城県出身の歴史家で、郷土・守谷では“博士”の愛称で親しまれています。近世史の研究者であった齋藤は数多くの著作を手がける傍ら、五浦を拠点としていた岡倉天心や横山大観、菱田春草らと交流し、彼らの活動を支援します。特に天心の創始した日本美術院の再興をはかるべく、大正3(1914)年には発起人の一人となり、実に半世紀近く、大観らとともに再興日本美術院の経営に携わりました。

本展は、そんな再興日本美術院の立役者たる齋藤にスポットを当てた全国初の展覧会です。初公開作品をふくむ齋藤旧蔵品を中心に、齋藤と交流のあった大観や小川芋銭、そして再興日本美術院の歴史を彩った作品を紹介しながら、院の歩みを振り返ります。そのほか、歴史家としての業績や、齋藤の愛した水戸の近世絵画等、県ゆかりの古美術との関連についてもあわせて紹介します。

みどころ

- ①齋藤隆三の旧蔵品を一挙公開します。横山大観、菱田春草から、代表作『土』で知られる歌人・小説家の長塚節まで、初公開となる作品資料を通して、齋藤と彼らの交友関係を紹介します。
- ②大観、春草、芋銭、下村観山、安田靉彦、小林古徑、川端龍子、奥村土牛、平櫛田中など、日本美術院の歴史を華々しく飾ったオールスターの代表作が一堂に会します。会場では、齋藤との関係を示すエピソードとともに、作品資料を紹介します。
- ③齋藤が高く評価した県ゆかりの古美術も展示します。《浮彫如意輪観音坐像》(小松寺蔵)、《十六羅漢像》(金龍寺蔵)といった国指定重要文化財も展覧されます。
- ④『日本美術院史』『横山大観』等の著作で知られる齋藤は、岡倉天心の伝記も残しています。本展では天心との関係についても取り上げます。常設展示室「岡倉天心記念室」でも企画展に関連した展示を行いますので、あわせてご覧ください。

[天心記念五浦美術館 学芸員 塩田 積雄]



小川芋銭《肉案》大正6(1917)年  
茨城県近代美術館蔵



《十六羅漢像》(第七尊者) 鎌倉時代  
金龍寺蔵 重要文化財  
(展示期間: 10月8日-10月30日)



富田溪仙《淀城》  
昭和5(1930)年  
個人蔵



横山大観《黿》大正14(1925)年 水野美術館蔵  
(展示期間: 11月1日-11月27日)



川端龍子《胎蔵》大正12(1923)年 個人蔵

会 期：2022(令和4)年12月10日(土)～2023(令和5)年2月5日(日)  
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)  
 休 館 日：毎週月曜日(ただし1月2日(月・振)、9日(月・祝)は開館)、  
 12月29日(木)～1月1日(日)、10日(火)  
 入 場 料：一般320(260)円／満70歳以上160(130)円／  
 高大生210(150)円／小中生150(100)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料  
 ※土曜日は高校生以下は無料  
 主 催：茨城県天心記念五浦美術館

## 展覧会の概要

近代日本を代表する思想家、岡倉天心(1863-1913)は、明治の文明開化に伴う急速な西欧化に対し、日本独自の美術文化を守り、継承していく必要性を思案しました。明治20(1887)年、勅令により日本の伝統的な美術を学ぶ場として、現在の東京藝術大学美術学部の前身である東京美術学校が設立され、明治22(1889)年に開校しました。天心はその中心となって開設に携わり、翌明治23(1890)年から同校を去る明治31(1898)年までは校長を務め、自身でも美術史の授業を行うなど、芸術家たちの育成に奮励しました。特に、校長天心は実習の基礎として設計された、古画模倣にはじまり、実物を見て描く写生、画題や構図を自ら考える新案、という授業の流れを再編し、最終的に卒業制作に至るカリキュラムに基づいた教育を実践しました。

天心ゆかりの地、五浦に所在する当館では、この東京美術学校の学生たちが授業や入学試験、進級試験で描いたとされる課題画を2850点所蔵しています。本展覧

会では、当館が所蔵する膨大な課題画コレクションの中から、臨画、デッサン、新案といった課題毎に作品を紹介いたします。同校で学んだ芸術家の学生時代の作品から、巨匠たちの若き日の研鑽の様子をご覧ください。

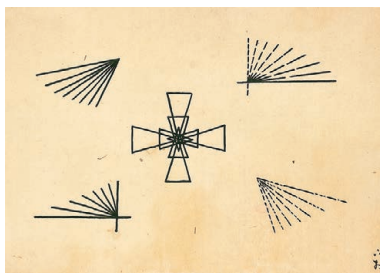
## みどころ

横山大観をはじめとする日本画家や、板谷波山や六角紫水などの工芸作家、ロマン主義を代表する青木繁や海外で活躍した藤田嗣治ら洋画家など、近代美術の各方面で活躍した巨匠たちの学生時代の作品が揃って相まみえる展覧会となっています。特に、当館で展示される機会の少ない洋画家たちの作品をまとめて鑑賞することのできる貴重な機会となっています。

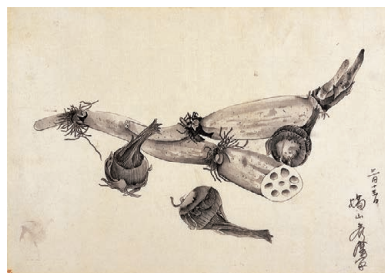
また、今回展示する作品の多くが初公開となるほか、五浦の画家たちを中心に、卒業後の作品も紹介します。東京美術学校での学びを経て、画家として成長し活躍していった彼らの画業をご覧ください。

本展覧会では、同じ課題に励んだ学生たちの作品を一堂に展示します。同じモチーフを描いた作品、いわば「同じ絵」だけどちょっと違う」、そんな作者による表現の違いにも是非注目してお楽しみください。同じ教室で隣り合い、語らい、ともに研鑽しあった学生たちの様子を思い描きながら、巨匠たちの画業の礎石となった「学び」をどうぞ堪能ください。

[天心記念五浦美術館 学芸補助員 川島帆乃夏]



下村晴三郎(観山)《線》  
1889-90年頃 当館蔵



横山秀磨(大観)《写生(蓮根、くわい)》  
1889-93年頃 当館蔵



青木繁(石膏デッサン)  
1900-04年頃 当館蔵



菱田春草《春の朝》  
1902年 茨城県近代美術館蔵  
(横山大観《秋の夕》と対幅)



高橋昇太郎(五山)《図案》1906年頃 当館蔵



中澤弘光《水郷より筑波遠望》  
1955-64年 茨城県近代美術館蔵



板谷嘉七(波山)《臨画(斉后破環図)》  
1889-94年頃 当館蔵

会 期：2022(令和4)年10月25日(火)～12月11日(日)  
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)  
 休 館 日：毎週月曜日  
 入 場 料：一般730(610)円／満70歳以上360(300)円／  
 高大生490(370)円／小中生240(180)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※障害者手帳等をご持参の方は無料  
 ※土曜日は高校生以下無料  
 ※11月13日(日)茨城県民の日はすべての方が無料  
 主 催：茨城県近代美術館  
 後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／  
 産経新聞水戸支局／東京新聞水戸支局／  
 日本経済新聞水戸支局／毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局

WEB予約をおすすめします

当館HPより「日時指定WEB整理券」(無料)を取得された方が優先  
 入場となります。来館日の1カ月前より予約可能です。  
 詳細は当館HPをご覧ください。

展覧会の概要

広島で生まれ、水戸で育った辻永(1884-1974)は、東京美術学校で油彩画を学び、在学中から白馬会展に入選するなど頭角をあらわします。卒業後は文部省美術展覧会(文展)で受賞を重ねて、画家としての地位を確立していきました。

辻は、画業の初期、山羊をモチーフにした作品で知られるようになりましたが、1920年から翌年にかけての滞欧を経て、帰国後は風景画家としての道を歩みます。各地を旅して湿潤な日本の風景を描き続け、帝展、新文展、戦後は日展で活躍しました。1958年には社団法人化された日展の初代理事長、1959年には文化功労者となり、1964年には勲二等瑞宝章を受章しています。

このように大正から昭和期の洋画壇で活躍した姿が、辻のいわゆる“オモテの顔”です。一方で辻は、植物学者を目指したこともあったほど少年の頃から草花を愛し、生涯にわたって2万枚以上ともいわれる植物画を描いた“もうひとつの顔”を持っていました。

本展では、山羊を描いた初期作品から後年の風景画にいたる、洋画界で活躍した辻のいわゆる“公”の油彩作品と、自身の楽しみとして描いた“個”のための植物画を紹介し、“ふたつの顔”を持つ辻の本質に迫ります。

みどころ

・山羊の画家

若き日の辻は、自宅で飼育していた山羊をモチーフに多数の油彩画を制作し、「山羊の画家」として名を馳せました。山羊の群れのいる牧歌的な風景が、平面的な構図と彩色による装飾的な作風で描かれるのが特徴です。

・彩り豊かな風景画

1920年代以降の辻は、風景画を数多く制作しました。落ち着いた色合いで歴史ある街並みを描いた滞欧期の作品や、大胆な筆致と鮮やかな色彩で国内の風景を描いた戦後の作品など、多彩な表情を見せています。

・緻密な表現の植物画

辻の植物画は、個人的な楽しみ、あるいは心の慰めとして描かれたものですが、その一部は『萬花図鑑』(1930年)や『萬花譜』(1955年)等として出版されました。緻密な描写で草花を捉えたそれらは、植物に対する辻の深い愛情と類まれな探究心の結晶であり、見る者を惹きつけてやまない魅力をたたえています。[近代美術館 学芸員 乾健一]



《ブルーチュの秋》  
1920年 当館蔵



《須磨の朝》  
1956年 当館蔵



《無花果畑》1912年 水戸市立博物館蔵



《ガラス器などのある室内》1935年 水戸市立博物館蔵



《てんぢくあぶひ》  
1907年 水戸市立博物館蔵



《ぎんばあかしあ》  
1931年 水戸市立博物館蔵

## 企画展紹介

# 戦後日本版画の展開—照沼コレクションを中心に—

会 期：2022(令和4)年12月24日(土)～2023(令和5)年2月5日(日)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日(ただし1月2日(月・振)、1月9日(月・祝)は開館、12月29日(木)～1月1日(日)、1月3日(火)、10日(火)は休館)

入 場 料：一般610(490)円／満70歳以上300(240)円／  
高大生370(320)円／小中生240(180)円

※( )内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方は無料

※土曜日は高校生以下無料

※1月21日(土)は満70歳以上の方は入場無料

主 催：茨城県近代美術館

後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／  
産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／

日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局

### WEB予約をおすすめします

当館HPより「日時指定WEB整理券」(無料)を取得された方が優先入場となります。来館日の1カ月前より予約可能です。

詳細は当館HPをご覧ください。

### 展覧会の概要

第二次世界大戦の終結は戦時下における自由の抑圧から人々を解放し、美術家たちは待ちかねたように活動を再開させていきます。そして、海外の新しい美術の潮流が日本に紹介されるようになると、国内の美術界は一挙に活気づき、1950年代には海外で開催される美術展にも多くの作家が出品をするようになります。その中で特に高い評価を受け受賞を重ねたのが版画作品でした。戦前の日本では美術の一ジャンルとして正当な評価を得ていたとは言えなかった版画が、世界を舞台に一躍脚光を浴びたのです。これにともない国内においても版画へ

の関心が高まり、1960年代にかけて版画ブームともいべき状況が生まれました。以降、多くの日本人美術家が版画に取り組むようになり、多様な版画技法の習得や、技術の革新などにより、従来の版画の概念を超えるような作品が生み出されるようになっていったのです。

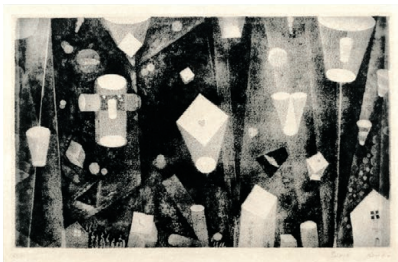
本展覧会では、県内のコレクターより寄贈された作品を軸に戦後の日本版画の展開をたどりながら、その魅力を紹介いたします。

### みどころ

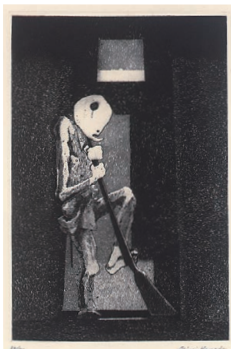
当館の版画コレクションが充実することになった背景には茨城県在住の医師であった照沼毅陽氏(1926-2021)の存在があります。照沼氏は、1975年頃から2010年代まで約40年にわたり、版画家たちが画廊で開催する個展に足を運び、自らの眼で作品を見て選び蒐集を続けました。

当館は2007年度以降、数回にわたり照沼氏から版画作品の寄贈を受け、2009年には「照沼コレクション展」として公開する機会を得ました。以降も照沼氏からは継続して作品をご寄贈いただき、その数は総計約600点におよびます。照沼コレクションは駒井哲郎、浜田知明、清宮質文といった戦後版画のパイオニアから加納光於、野田哲也、池田良二といった現在も活躍する作家まで含む充実した内容を誇っています。また、その核をなすのは木版画家・清宮質文の詩情溢れる作品ですが、本展では近年当館が収蔵した清宮の遺品もあわせて展示します。

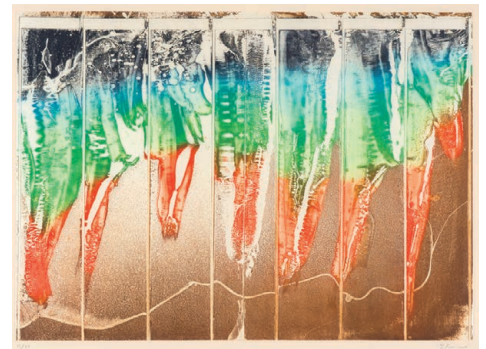
[近代美術館 主任学芸員 永宮勤士]



駒井哲郎《東の間の幻影》1951年 当館蔵



浜田知明  
《初年兵哀歌(歩哨)》  
1954年 当館蔵



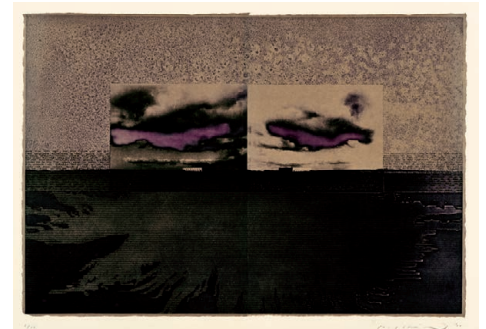
加納光於《「波動説」No.24》1984-85年 当館蔵



清宮質文《蝶》1963-64年 当館蔵



野田哲也  
《日記 1977年  
8月10日》  
1977年 当館蔵



池田良二《岬の分水嶺》1988年 当館蔵

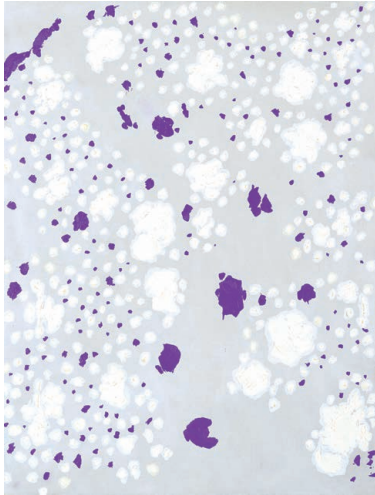
# 令和3年度 新収蔵作品介绍

茨城県近代美術館では、令和3年度に日本画1点、油彩画1点を購入しました。また、県内外の皆様から31点の作品を寄贈して頂きました。

その結果、令和3年度は2点の管理換え作品を含め、日本画8点、油彩画8点、水彩画5点、素描7点、版画7点の合計35点が新たに美術館の所蔵品に加わりました。

これらの購入、寄贈等により、当館のコレクションはより充実したものとなりました。この場をお借りして寄贈者の皆様をはじめ、関係者のかたがたに厚く御礼申し上げます。

新収蔵品は本年度の所蔵作品展の中で順次ご紹介いたします。



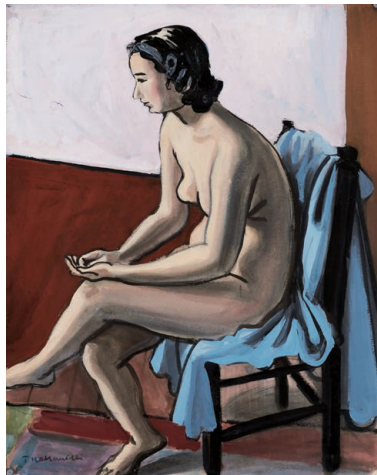
©NATSUYUKI NAKANISHI

中西夏之《擦れ違い/S字型還元》  
平成23年（2011）

中西夏之は1960年代に公共の場でゲリラ的パフォーマンスを行った「ハイレッド・センター」の作家として知られ、その後、ダンスとのコラボレーションを経て「絵画」に回帰し、哲学的な思想と制作により高い評価を得ました。

熊岡美彦《ホーレンダム下絵（一）》  
昭和4年（1929）

石岡市出身の熊岡が滞欧中に描いた作品です。現地から日本に送って「第2回聖徳太子奉賛美術展」（1930年）に出品した《ホーレンダムの女》の下絵の一つと考えられています。

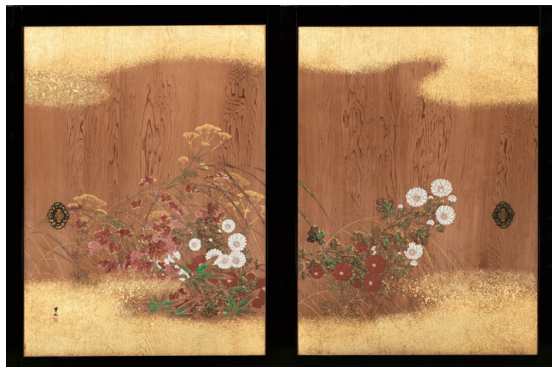
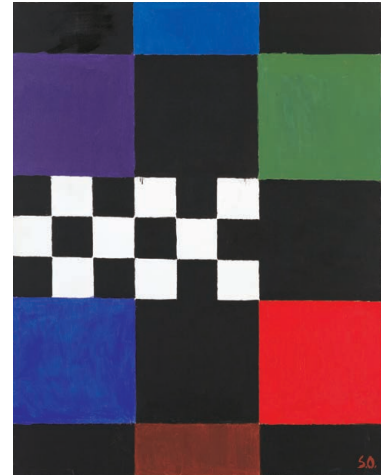


中西利雄《裸婦》  
昭和14年（1939）

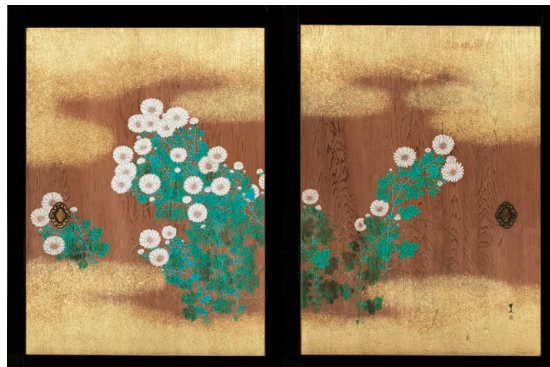
中西利雄は、透明水彩と不透明水彩を併用した色彩とモダンなフォルムで昭和初期の水彩画界に新風を吹き込みました。裸婦像は水彩画では難しいとされ、中西の完成作もあまり残されていません。本作品はそんな貴重な一点です。

大沢昌助《市松シリーズF》  
平成6年（1994）

作者は初期には具象絵画を手がけていましたが、次第に説明的な要素を排し、色と形に還元した簡潔なフォルムにより画面を構成した作品を制作しました。



「秋草図」(表面)



「白菊図」(裏面)

木村武山《須磨御殿杉戸絵(秋草図・白菊図)》  
大正7～8年頃  
(c.1918-19)

行方市出身の実業家・政治家、内田信也(1880-1971)が建てた豪邸のために描かれた杉戸絵の一部です。花鳥画を得意とした武山の、大正期の充実ぶりを示す作品です。

# 茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

プラチナパートナー企業のCSRやメセナ活動を今号と次号の2回に分けてご紹介します。

## 株式会社常陽銀行

当行およびめぶきフィナンシャルグループは「地域とともにあゆむ価値創造グループ」を長期ビジョンとして掲げ、持続可能な地域社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする地域の全てのステークホルダーの皆さまの課題に寄り添い、ともにあゆみ解決することで、新たな価値を創り続けてまいります。



寄贈した玩具で遊ぶ園児

### 金融サービスを通じSDGsに貢献【寄贈サービス付私募債】

お客さまが発行する私募債の手数料の一部を活用し、お客さまが希望する学校等に図書やスポーツ用品等を寄贈する「寄贈サービス付私募債」を取り扱っています。さらに、SDGsに貢献する企業を応援するため、寄贈先にSDGs取組団体などを加えた「社会貢献応援債」の取り扱いも始めるなど、持続可能な社会の実現に向けて金融サービスを通じた地域貢献に努めています。



常陽藝文センター

### 地域の芸術・文化振興と普及活動【常陽藝文センター】

常陽藝文センターは、常陽銀行の創立50周年記念事業の一環として、1982年3月に設立、翌1983年7月から本格的に活動を開始した文化財団です。以来、「芸術・文化を通じて潤いのある郷土づくり、豊かでゆとりある個人生活づくりに寄与する」ことを目的に、郷土文化の掘り起こしや文化の普及活動など幅広い事業を展開しています。

## 関彰商事株式会社

### 社会貢献活動への思い

奨学金制度、募金活動、地域イベントへの協賛、ボランティア活動など、様々な角度から社員・会社が社会貢献活動に取り組んでいます。これからも「地域の皆様と共に生きる企業」として、社会に貢献してまいります。



### 江崎玲於奈賞に単独協賛

ノーベル物理学賞受賞者江崎玲於奈氏の功績を讃えて創設されたこの賞は、ナノサイエンスとナノテクノロジーの分野における顕著な研究業績を顕彰し、科学技術振興と産業活性化に寄与することを目的として、茨城県が創設した日本の科学技術賞です。当社は地元企業として2004年の第1回目の授賞式からこの賞を単独協賛しております。



### 地域や社会の課題をスポーツの知見で解決

筑波大学アスレチックデパートメントと連携し、地域の皆様のウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に満たされた状態）向上を目指した各種プログラムの開発に取り組んでいます。また、オフィシャルパートナーの鹿島アントラーズFCとはお互いの強みを生かし、地域企業のDX推進で連携しています。

この事業は、地域社会への貢献を理念に掲げる企業や団体等と美術館がパートナーとなって、一緒に創り上げる美術館支援のシステムです。この度、新たにシルバーパートナーとして水戸ヤクルト販売株式会社様をお迎えし、パートナー企業は14となりました。

さらなる連携・協働のもと、より一層美術館活動の充実に努めます。

### パートナー企業の皆様

常陽銀行	関彰商事	ザ・ヒロサワ・シティ	A D A S T R I A Play fashion!
近代美術館友の会	茨城県信用組合	茨城交通	心を込めて、健康できるカーライフ 茨城一ヨタ
Jayacet since 1956	関東鉄道株式会社	KEISEI	Lily Academy Group 学校法人 リリー文化学園
物流で人々を幸せに。 沼尻産業	Yakult 水戸ヤクルト販売株式会社		

# INFORMATION

MOMA  
IBARAKI

10月～12月のご案内

## 茨城県近代美術館

### 《企画展・関連イベント》

《辻 永 ふたつの顔を持つ画家—油彩と植物画—》  
10月25日〔火〕～12月11日〔日〕

・ワークショップ「植物画講座—植物の魅力を描こう」  
講師：石川美枝子氏（植物画家）  
期日：11月20日〔日〕 午前10時～午後3時  
会場：地階講堂  
定員：15名（要事前申込、要本展チケット半券（当日以外も可））  
参加費：1,000円

・学芸員による鑑賞講座  
講師：乾健一（本展担当学芸員）  
期日：11月5日〔土〕 午後2時～3時30分  
会場：地階講堂  
定員：100名 ※要事前申込

・令和4年度 第2回ミュージアムコンサート  
《晩秋を彩る「和JAZZ」の響き～尺八とピアノで紡ぐ音と音～》  
出演：小林鈴樹（尺八）、若井優也（ピアノ）  
期日：11月12日〔土〕  
午前11時～午後12時 / 午後14時～（各回30分程度）  
会場：地階講堂  
定員：各回110名程度 ※要事前申込

《戦後日本版画の展開—照沼コレクションを中心に—》  
12月24日〔土〕～2月5日〔日〕

### 《所蔵作品展 第1展示室》

《日本の近代美術と茨城の作家たち 秋から冬へ》  
10月22日〔土〕～12月18日〔日〕

《日本の近代美術と茨城の作家たち 冬から春へ 前期》  
12月24日〔土〕～2月12日〔日〕

### 《所蔵作品展 第2展示室》

《新収蔵作品を中心に》  
10月22日〔土〕～12月18日〔日〕

《熊岡美彦とその時代》  
12月24日〔土〕～2月12日〔日〕

### 《アートフォーラム展示》

《版画の技法について》  
10月22日〔土〕～1月29日〔日〕

### 《その他のイベント》

・家族でわくわくミュージアム  
期日：12月10日〔土〕 小学生+大人（保護者）  
12月14日〔水〕 乳児+大人（保護者）  
12月17日〔土〕 幼児+大人（保護者）  
会場：1階所蔵作品展展示室  
定員：各回5組20人程度 ※要事前申込/参加費：要所蔵  
作品展チケット（土曜日は高校生以下無料）

・子どものためのワークショップ 2022秋  
期日：11月26日〔土〕、11月27日〔日〕  
会場：地階講堂、会議室 ※参加費50円（行事保険加入料）

・令和4年度第2回美術館セミナー  
期日：10月29日〔土〕  
会場：地階講堂 ※参加費無料  
定員：20名 ※要事前申込/参加費：無料

・どなたでも参加できる茨城大学の学外授業  
「令和4年度美術館アカデミー」  
講師：島剛氏（茨城大学教育学部教授）  
期日：11月19日〔土〕  
会場：地階講堂  
定員：100名程度 ※要事前申込/参加費：無料  
※各イベントの詳細や申し込み方法は当館ホームページをご覧ください。

## 茨城県つくば美術館

### 《土曜講座》

時間：各日午後1時30分～  
会場：2階アルスホール  
料金：無料  
10月8日〔土〕

・第6回「笠間焼250年記念 欲しいがみつかるうつわ展IIIについて」  
【講師】若井 基生（茨城県陶芸美術館主任学芸員）

11月12日〔土〕  
・第7回「再興院展の立役者 齋藤隆三について」  
【講師】堀田 祝雄（茨城県天心記念五浦美術館学芸員）

12月10日〔土〕  
・第8回「板谷波山 卓越した作品とその生涯」  
【講師】飯田 将吾（茨城県陶芸美術館主任学芸員）

### 《貸ギャラリー展》

9月27日〔火〕～10月2日〔日〕  
・西陣美術織 若冲 動植綵絵展【織物絵画】

10月4日〔火〕～10月10日〔月・祝〕

・富張広司と仲間たち展【版画】  
10月12日〔水〕～10月16日〔日〕

・第1展示室…カーサココサ 茨城の建築家展【建築】  
・第2展示室…第21回仏像彫刻同好会「睦」展【彫刻】

10月18日〔火〕～10月30日〔日〕

・つくば国際アーティストインレジデンス 周縁の美学展【総合】  
11月1日〔火〕～11月6日〔日〕

・茨城県高等学校総合文化祭写真展【写真】  
11月9日〔火〕～11月13日〔日〕

・第1展示室…茨城県立笠間陶芸大学校 学生作品展【陶芸】  
・第2展示室…ミュージアムショップaの仲間展【絵画・工芸】

11月15日〔火〕～11月20日〔日〕  
・第38回MC展 筑波大学大学院人間総合科学学術院人間総合  
科学学術研究群芸術学学位プログラム（博士前期課程）洋画・  
版画・日本画 作品展【絵画・版画】

11月22日〔火〕～11月27日〔日〕

・第1展示室…第11回川村美術教室展【絵画】  
・第2展示室…第26回七彩会展【絵画】

11月29日〔火〕～12月4日〔日〕

・西岡民雄「いのちの譜」展【絵画】  
12月6日〔火〕～12月11日〔日〕

・第75回県南高等学校連合美術展【絵画・彫刻】

12月13日〔火〕～12月18日〔日〕

・第26回取手松陽高校美術科展【総合】

12月20日〔火〕～12月25日〔日〕  
・太田圭退任記念展「屋のように急がず、しかし休まず」【絵画】

## 茨城県天心記念五浦美術館

### 《企画展・関連イベント》

《開館25周年記念展 Ⅲ  
再興院展の立役者 齋藤隆三》  
10月8日〔土〕～11月27日〔日〕

・展覧会担当者によるギャラリートーク  
期日：10月10日〔月・祝〕、11月20日〔日〕 各日13時30分～（約40分）  
会場：展示室 ※要企画展チケット

・講演会「齋藤隆三と横山大観・菱田春草の交友」  
講師：齋藤竜太氏（東京国立近代美術館 主任研究員）  
期日：10月30日〔日〕 13時30分～（約40分）  
会場：講堂  
定員：57名 ※要事前申込（抽選制）

・日本画実技講座  
講師：齋藤竜太氏（日本美術院院友・齋藤隆三令孫）  
期日：11月3日〔木・祝〕、4日〔金〕 10時～16時  
会場：講座室  
対象：2日間参加できる方（10名）  
※要事前申込（抽選制）、要企画展チケット、材料費

《のぞいてみよう!!東京美術学校課題画展》  
12月10日〔土〕～2023（令和5）年2月5日〔日〕

・展覧会担当者による作品解説会  
期日：12月17日〔土〕 13時30分～（約30分）  
会場：講堂  
定員：57名 ※当日整理券配布、要企画展チケット

### 《その他のイベント》

・第33回トワイライトコンサート  
出演：矢口真由美（ソプラノ）、大峰真衣（ピアノ）  
期日：11月26日〔土〕 17時～（約60分）  
会場：エントランスロビー  
定員：100名 ※要事前申込（先着順）、要企画展チケット

・来て・見て・発見! アートツアー for kids  
期日：10月29日〔土〕 10時～12時  
会場：展示室、講座室  
定員：小中学生と保護者5組（1組4名まで）  
※要事前申込（先着順）、保護者のみ要企画展チケット

・校服試着体験  
期日：11月19日〔土〕、20日〔日〕 10時～11時  
会場：岡倉天心記念室  
定員：各日10名 ※当日整理券配布、要企画展チケット

・年忘れ!五浦奇席  
出演：二松亭ちゃん平（社会人落語家）  
期日：12月25日〔日〕 11時～、14時～（約45分）  
会場：講堂  
定員：57名 ※要事前申込（抽選制）、要企画展チケット

### 《映画会》

会場：講堂/定員：各日57名（要事前申込、先着順）/無料  
時間：各日10時～  
・10月9日〔日〕 「ハリ・ルーヴル美術館の秘密」85分  
・11月6日〔日〕 「アルジャーノンに花束を」95分  
・12月11日〔日〕 「サンタクロースになった少年」80分

※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止または延期となる場合があります。最新の情報を各館ホームページ等でご確認ください。



### 茨城県近代美術館

〒310-0851  
水戸市千波町東久保666-1  
TEL 029-243-5111  
FAX 029-243-9992

HP <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



### 茨城県つくば美術館

〒305-0031  
つくば市吾妻2-8  
TEL 029-856-3711  
FAX 029-856-3358

HP <https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



### 茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703  
北茨城市大津町橋2083  
TEL 0293-46-5311  
FAX 0293-46-5711

HP <https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中! 詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で展覧会をご覧いただけます。

○土曜日来館の高校生以下の方（ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末学年初における学校の休業日に当たるときは除きます）  
○教育活動としての茨城県内の小・中・高義務中等教育 特別支援学校（県外含む）の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者  
○国際交流事業として国外から本県に留学している方  
○児童福祉施設、身体障害者更生支援施設、知的障害者支援施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）  
○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方  
並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）  
○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで）  
○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

### ＜お知らせ＞

①「令和4年度茨城県芸術祭美術展覧会」が10月1日〔土〕～16日〔日〕の期間に茨城県近代美術館及びザ・ヒロサワ・シティ会館で開催されます。友の会会員の皆様は「友の会会員証」の提示により無料でご覧いただけます。ご来館の際には会員証をお持ちいただくようお願いいたします。なお、会員証がない場合は有料となりますのでご了承ください。

②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金をお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。天心記念五浦美術館でお申し込みの場合は、入会申込書の提出と入会金のご入金を確認後、2週間以内に会員証をお届けいたします。

### 詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局（☎029-243-5111）または県天心記念五浦美術館（☎0293-46-5311）にお問い合わせください。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関する確認できます。

<https://www.fmoma.com>

